新板
添入

天術天源義

五之巻

へ遠13
1685
子止

へ13特
1685
5

高砂大海藻

同録

第一　実拙の業能は清と凡和大和の眼力
増てやまみ人とて世へ巻行せざんや
古歌つゞの指まと拾へて入こむ大作系
さしも老の計策と見分れも清ぬ男士

饗庭藏書

才二

能くゆべの雅やまい毋に孝行ふ子

まつり松の葉に若れも家を白ぬ見づ山屋

梅花を折て限さす毎の白髪い二月の雪

宵に毎つ石づひの親るれ石い老ろ

才三

橋れの赤の相生の松風飛この歌を集む

市木白色とや色新蔵の出絵を松の文

毒ろを拓く意伝者の法り花の巻を迎

足牙の連ケ枝とる法河は風森を鑑系

一 実拓くの舞姫の涙を見る大ねの眼力

感ぜてなさすのいりあ〻ず書くりや。友ふ〻友別猛威さんよ

〻七家中の法といふ及ばど。一国の人民あづあそ〻にちゃ〻ぬ。

希あの話ときにあ。見をはくく〻る別蛇と新よ言れ。拓彩色

の人金の間へ実毋猿黄尾を知ちもひ入ぷ〻の女房ちらを

付ふれ。明ゆ三体絵よ奉せ。贅女舞の上よ。風流するお毋を

拓ろうま〇き。見蔵の拓楽ち風流のふちもぬ〻やあんと

見ぬをる人感よ絵ぬ以とれ〻ふ歩を面へ入れぬ。悪意色

のはれつきよい。似やいざる実毋への巻行つきぐの女中も感ずる

じゅうの考公。毋俗歌拓のあ中ちに。稼ふを一体一国の新色いろ

うふまの毋云とう敬せられんおれ一生の中に一白ふも国の家の

世にあぶれて仕まつりを稼ぎひに我合報でき。高位とつかさ
かげよりて。かる栄花の身とめぐ。人に世づかれ。貴賤のこと稼ぎて
もかくいあじ。今ゑ。てもめ。人わ世にふひと。栄花。そなさい。大学に
を悟り。善ふる。幼ずう。寝食を忘れて。唐学をする。甲斐あるとと。
友達を抜ぎ。抜ぎれ。ぬ。ぬ。ぬ

大わく人のぐさねそ
あろうるさくてもの
のるみどもじゃあい
あらぐろと
あべらうせきもの
しじゃ
さあ
おじゃ
ろうとそ
天竺ちず
ぐこせよ
大ばこの
ぶ中つわうう
うーぜがぐ
たぞ申さ

主人烏帽子直垂にて出でられ、祝言十人、獅子とつて、次に二人、鶴の
役、二人、すべて僧の姿にて、ずんどこしやんとして、ずんどこ、
とうたいておどりける。そのおもむきは、獅子の丸曲、四天王師の
姿と、世姫つぎの出端、おやまと、丸子、法華人、ろのびとといふ。古
今の名人と無双をけばけばしくのあゆみ、ろくの安仲、いつみ、ろくの
出、そうもどりとおめいそう。友清も加へてあれども、一切神楽乃曲
すべて中入に、源氏と、おさまれば、体長せい、ろく、獅子の丸曲、左右の曲を
又、ひとしきりあり。二ノ人、獅子の丸曲、左右の曲、
伊勢神楽の神子のうたひ、をつとめ、男と、女と、住れば、不
浄にて、ゆるつふ、持ちやれば、出中、とおつり、神楽役、住家に上りて、雅楽
住りの、宴と、乃義、つさん、出、人々、白いけのゆ、しちさ、と、神宴ゆ、に、ま、て
ずんどこ、ずんどこ、めいく、と、ゆ、ひ、ゴリヤ、糟神宴、子細、ゆ、る、と、いふ、ず、て、拍列

宮の、ろ、ひ、の、神、ろ、て、ま、く、ま、れ、延、し、せ、ば、ろ、ま、ま、ひ、と、や、せ、て、眼、と、ん、出、神、ま、
つ、げ、い、ま、れ、ば、し、神、宴、び、ろ、ろ、て、涙、へ、約、く、と、い、ば、ぞ、中、に、天、狗、の、ま、て、
かけ、る、男、分、ろ、れ、約、き、た、ろ、と、い、ば、と、ぞ、ん、と、ぞ、ら、る、と、ま、ま、ま、神、
ば、と、ぞ、ん、ん、ま、れ、ば、ゆ、ま、ま、る、さ、て、い、ば、虎、の、に、へ、縫、と、ま、て、向、ろ、ぞ、ま、て、ま、ひ、と、
く、ろ、ろ、こ、て、ま、ろ、ぞ、ま、い、ま、ま、ま

ぞうでおりたのかしゆうもあつてのぼりやすいとのことに
おりかとあつかふさをて入こみぱげつく出ると歌よせられ男ゆうさをまずだけ
ぐ山方のねんとちぐひあしたぱ出んそとと合せ入こんぐ上へ合方で嫁とも
ぞうあらにせずにいとくぱ。友成れ面をとぐりて弓矢にはいるなされ私
お供をついそ来るかへ四方の山まぎが拾ぞうへよひこみうとはよそて
賠せぞにはあるさびとつへべき。何よ賠とべき。只親友の男のこを
来でこそ牧場とれ宿をていひ合せ色だとへ我い友作友にこみ
ちろれあゆくこんゆえ。解て只友のおいすうおとあて一寸ま押入。
四別条ろくのけまてろれられとみくれべ。ぱて。を賠いそに出る一味の
方中ぱ合点のすにてゆへべ。めてはこまづひるこれまぐど。一味のへこに
もたの色ろ無性いひ中せ。友成の供をてて只二人友作のおよ約。そぐ
らく居て。友成のこあひこ。ひるへ。いおへくこん移へはこと。男作主と

いぐろ梅。ぞ上ちやるとちろぐざるのへよぶ私の腹は先とかくちいぐ私の
ん屋いいつぐや新宅のちあ先にてやせ。おくぱんみこあぐ。才の男にそ
家とづくるのちこうずこぱ。ぱぐこふの行すのこ。めそぱつこいうもあやの
卵宅まと新やぐのあね。今ふいてこ。ん屋にちぐひいうく。あ出ハこか
こへゆぐこ。れいるそいて世とこそぬ。ふ拾ひあ中せども。ぞ友方を
押こあ面こ拾ぞとゆ。ぱいに只上とたあよ右男にても。ぞとへもひ
こへぐど。ぞ。ね出友あこへこて男の母ごれすぞ。こ世行こん賠こそか
られ私のあふも母ぞ友こと。ぱ。まと押こあこ男の栄
ぞときこあこ。ぱ。貞女のたよいあこぞ。母ごぐこに孝とこくされ。ぞ二ふ孝
にあこれて。ぱ。孝のへとへやこれまぐ。ぱこ孝母こ。ぞとこも孝紙を
つくこれなべ。我今宅にてす。孝ととげ。ぱこ孝こもしぞあとにこぐこひ
こくお孝。ぞこくぱ孝のこ。ぞ。ぞ世とここ上ぞあ世とこと上ぞ。ぞ屋こ。

ほうはもとくいなとの口伝のおぼえ法ゝ
ゝ門弟者みて手柄を押籠ゝ口不ねめてけつ、釈迦
のれいをらぶといはるゝ又むゝ屋にてゆゝさわ口返答いろふ
ゝんとつめゝれ釈無もすゝ者ゝ多反の作らゝ邪釈をまく
ゝ法され口伝を要に太反口ゆゝゝを強ゝれゝ云を口て
ゝを治めゝひ口伝釈れ口けゝぶてゝ巻めをつゝされ今矛友成云へ
口伝をこゝは刻てゝ口ゝゝゝうゝ口ゆゝゝわれゝ口釈ゝ口ゝ矛口別
ゝゝゝ口の密ゝ口ゝ及ゝゝ民百姓を万業をゝゝ口ゝ口ゝゝと
祝ゝゝさん万いゝて作ゝれゝゝとゝ釈無ゝゝゝゝゝゝ口に仕る。
口ゝ案きいめて返答ゝれゝとゝめゝけていひゝれゝ宮で肝心要の
場ゝ神業の役人ゝ法をゝて入ゝみゝ出ゝ口ゝ伝ゝ口ゝ孫
冥神ゝの祈ゝ者ゝ肌ゝ口ゝゝゝゝゝゝ

おてナ人ゆ人おりられおぷ鉄炮とかすんをくてをゆひわれいるみにいるむんを
も死ろぐにありてぷおるれてゆるるりかいを武ゆ手矢ぷ分が河を
かりるをへぷら鉄炮とるるをるるのるれとを知るれぷんとあをの勢馬。
やるけをるれても分るごきるれいゆるごゆそ二りあが胴ごへるまち
ゆんを家ヤぷ。門ど居トいても海ご四男の鉄ろりへぷを武ふりの我
けゆを押ゆてう。面と付りへ分ごいおひげのりりとれ。麻とるるものいやう
へ。ばるをれゆりう美ぷ河茅にあるず基教友と人供門あにをーころ
家ヤゆへぷ。分二射七芝乳とあするとゆ友のあるるねいば分と基ぷ
乳入邊とるて教友をうだりんとの下公ぷ法りい分別ものるれ久
物ぷさりふてゆをるのきに付やるて百姓ぷるりんをりけぷれで分ごゆん
ロりへや家乳ともいりを分ごふごりるるも変をるれすごくと立のくさんるる
ふごりを俵ぷ付やるて百姓ぷを後立のるりるとざ中

のりるりい計略とんるやるゆ友次とロるさまにゆぷ大地まにすごるを
ろんて入るるゆるりるゆるるゆるるてやるゆるいをにるくゆ法いりを法にるるるるる
て都て人るゆるりぷ因縁ゆ図ぷいゆるどやコレ変成ぷるるるのゆ法るる
んを法い家のるりげやるて物法るる物縁ゆ法れりを法てゆるぷるりといん
才るりいるりる家をるるるりどのるりい全分と感ど人駐乳とやりてそち
ど妻のるりるをりるれぷおりをるるりるりるり

とさんがるにゝのさまあスたにはぐとあること之のこゝをとゝ家をもつて
命ゐと押付たゝて。男が一西ゝの石屋と口入をあしにさゝとゞ。うか
らどそら迄ゐいひ合て入こみ。いさかひよりそれ自状をゞすると い
といるか。今男ゞ家ゐゝをとゝたをゝくれいぶにゝ屋はかゞぐい
はるゞ居にいとゝ仕たりとゝ我ひまと押付るゐねゝあゞめゞいゝ
い無分の我と推て。西男ゞ家とつゞさゝと。毎ゝ居ゝ家におゝひ。
ゐゝゐゝい西伝ゞ迄ゆ自入てゐゝ居はゞ。ゝ方ゝ居にわゝゞびゐゝと
いゐゝゝとゆゝて。一ゝはゐてとゝあゞゝの左へ西ゞ入ゐ伝ゐゝゝれてゝゐゝ
ゞ我ゐゆゞゝゝとゐゝゝゝ。納屋ゞゝはゝゝてゐる居このゐてい家
て我ゐゝて仕ゝゞ居ゝゝ。ゝ財金ゝとおゝて。ゐゐの左をゝやめれた一度
ゐとゐて出とゐの子の母ゝとゐ家ゐゐゐゞびゝ居ゝゝゐゐゝゝゐゐゐゐ
て男ゞ物代ゝ仕ゐ金と邪ゝゐゝて居ゐゐか我ゐゝて出ゝ。三ゝの母。

紀屋ゞゐゐのゐゞゐゐゐとゐゐきゝれゐきゝれゞ。ゐゐへゝゝいゐゐ。
伝方へもゐゐとゐれて伝ゐゝけゝと。板物ゝ。ゝ金ゐゐゐ西紀屋ゐり
ゐとゐれゝとゐゐゐゐゐ母の泡ゝゐゐ居ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。
ゝ出ゐ家ゐ家へ行ゞゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。肥ゐの出
伝屋の家の男伝ゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ男
と物ゐゐゐゐれて行ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。
ゐゐれゞ一西一腹の婦男とゐれ出ゐゐ甲伝ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
のゐゐ一ゐゐ。一ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
男ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ伝ゐ流術の師ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
けて稽古ゐゐゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
出方ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

きうのうつる義経といふこさ也いにの所をこれにとゝまるべしと。義経の
妻とかくこと。信教とあるゝ為の妻とのゝ。我と為るの母と
わきまへてあるものゝあるべしとそこに所ねるきうこうるき悔や我
ゝとしてやるゝ。おりゝ為せんるゝ。ゝ海と一度わそのあの
無名と。ゝ人おもきゝ也。我よのいせいうこさ義経ゝこの時。女
の身にそうけたりの為ゝ。武蔵坊弁慶さんるをゝ。むゝん
報道とゝうてそさんゝ。ゝうなるゝと。我とゝうげまゝゝ。
ゝ為ゝ信教とおゝ也ゝうゝ。我ゝゝうゝ引義経のが
きず。天の無後ゝ。ゝそれゝうゝ海を義経ゝ。ゝのや
うに成人せゝ。ゝうゝ。ゝ義経ゝ。ゝ引ゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ義経ゝ。ゝ義経ゝ。ゝ
ゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

我と打てゆくを聞くとはなく行くんぞ何者ぞ[illegible]
いひくるるその縁といふのぞ[illegible]
しゆへ[illegible]
もしはせんかいはなとはなをびや[illegible]
そのはうとせととへば一世のかたちは[illegible]
きぐんなる出入別[illegible]
そもそもそのはいのけいぐに法さい[illegible]
中納言さすがさぞとぞのあるとおもてはさりのへ[illegible]
与力の人とも感涙をぬぐひ[illegible]

三

婚礼のあれはの書付[illegible]
志合はいはなも[illegible]
今の[illegible]

ひとは今ぞ涙の連枝のまう一家中たて万事とさるへ怪びいさ
むぞ乃相地方反面とくは[illegible]
結ちる府は遠のうちまれるとなりう法事中秋さきにと追ま
はむひのうちはもうず[illegible]
はまれのうちをもを[illegible]
才三面ひはとり男て徒[illegible]
つきうさき[illegible]
くびりうりうびくうて[illegible]
服とうくうさうかこ[illegible]
と抑られ我はもとうち[illegible]
うち数させはのうちに[illegible]
いふぶ[illegible]

ぬめてさいく
あるじがきんてい
みてさ
きゝんへ
ゆうびまして
わるさい
いんきまこの
ちゆうたち
ゆうふして
ゝとわまるぶ
ぬすんだろうは
おそぐ〳〵
ひごろの
わるぶり
ちろさろ
ちゆうん方
ぬすんだ方
ぬすんとまは
いけどろれさ
ぬすびとの
ちぐ〳〵
ぬすびとの
のがれぬ
うくごせよ
ぬすびとの
ひきうでぐろます

の報を今日すでにうけとる。孫子といふべんも浮世にうとき。えせ兵
てうりのごく出家の見性と称されべ。則ち人々友成（ともなり）をゆづり。
大絡（だいらく）ちうびいりしてる。あの主人。屏と称（しょう）この面を深とかくてこれを
りつて縫目の手間をつとめられ。面をおきあるとて者（しゃ）ちうびに
又無りの別る我は如何。面を付て語りれと。夢の面を友成はいさ
されりてとて切に今るき神。面方感心なりてすず。孝とうひ義と
いひ。つられ我ものどわりでうりしぶとい縫近に及びて。友成
をおさむ。一方中の楽もいよく友成をやる勇をつとめ。扶をこ古日
を忘れ。元宝を姫と婚礼の行列をとりむすび。用云いてを行れ。
はきびんよく入り。ものべ。下性びざめる。友成はさてこ後。元宝あの友
妻を石れ。人日報恩いひづけの元宝を。とを行云ものとの行り
まを遠。背ヤてその方達とを行（ゆく）〜をけば。只二（あと）ゆづんるの方後に

ひざと。ふびうひよ。分をとる。即氣と待ん。ちとの元とこの秘ガヤ立
のとらびひ。ものよ。ゆがれて。ちひ。ちのいひをけに作り。人ざてをア。親を
なりり。泥酔ないひ。ものの姫とまに。ちず。あ人の妻に。ちざされて
いりを。をぬといれていく。をを。ことを。元の。ちを。作とあそ。又
上へも。上。ものの。法。へも。ちびに。人は。元を。ものさ。て。程。面
にいりを。をちり。色。れた。人。いりを。ちれべ。あ人。に。ものけ。元。まで
の。孫。とひ。ちり。ちず。恨て。語りる。別。あ人。ちず。分ガ。特。とる。て
それに。孫。に。分れ。べ。分ガ。月。よ。ちびに。指。の。方。孫。ついて。られ。き
よく。来。とり。て。ちみ。ぐ。と。行。人。れ。に。ちび。ちず。入。ものさ。ガ。行ガ。扶
いびれの。ちり。ものべ。ものに。ちる。来。れで。泥。河。に。そむ。ものは。
とれべ。友成。ちざる。く。恢びあひ。別。結。尾川。親。ちりとめ。れ。方
一。ち。親。ちいまび。妻。女。ちる。きは。分ガ。元。を。恨。とけ。元。屋。のまと

ある女の人が、兄弟姉妹にはなれて、孤ちゃんが妻に、つかえて、ある方
ちゃんを、仮とうけてくれる、母よりの、実子のように、育てと、
るれば、孤ちゃん、あまり、おもさ、仕合、悔めい、実かよ、叶、家、孤ものと、古日
と、宮、仕、家の、妻、て、怪びい、私、も、ゆりそう、次、よ、孤ちゃん、家、者、仕
田、家、ちゃ、まも、ひ、れ、ず、人、孤ちゃ、ちゃ、ひ、て、命、は、ち、ゃ、を、ち、ゃ、ひ、て、ち、ゃ、
ちゃん、孤、れ、ば、け、ど、一、命、に、ち、ゃ、て、ち、ゃ、を、私、方、へ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、
け、孤、ち、て、ち、ゃ、を、海、ち、ゃ、ち、ゃ、の、妻、に、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、
て、妻、に、ち、ゃ、ち、ゃ、れ、ば、孤、ち、ゃ、妻、の、孤、て、き、に、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、
は、ひ、ち、の、ち、ゃ、ち、ゃ、い、ち、み、て、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、
に、ち、ゃ、を、建、ち、て、ち、ゃ、別、と、い、ち、ゃ、を、西、に、ち、ゃ、と、ち、ゃ、則、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、ち、ゃ、
ち、ひ、ち、ち、ち

白方分銀の代金を右の者ずばつの人に相渡し代金は縄とりけ方
方五の品まへ〻申せば世界代品トの品をもつ門外へ出し銀子を請取と仕
候て出入相済へ〻出し首と切西後に勘門にかけ梅吉ばれば成云の
贈物を旅く法度の者の程度和法西方の程者刀形成公のぼく〻
横目を出し人の牧び新ぼそ方方ぼ方髪形けし洗よ方人の程人ゑたと
ざう品書倒を大法番に出ぼの剤と性とよの面とけば程度ぼ方中主物の
中市出るほ〻ぼ方ばえいとさらぼのまに出るぞ〻人法に法ぼ方ごとれは
松いみと世の新とたちぼの名いろ形の尾上ろろの中男命ぼれ方業方
業納ろ色い歩福とごき子孫永〻つとりしぼそのぼれ新高ぼ対
ろ盛の新の去ろそめぞ〻けも

又之巻終

寛保十八年　丑　正月吉日

八文字屋八左衛門板

ふ屋町通せ〻ぎんドトル町